



〒108-0014 東京都港区芝四丁目一番三〇号
 TEL〇三三四五一一〇九二 〇三三四五一一〇九〇二
 □学舎〇三三四五一一〇九一 加入者 東京女子学園清香会
 東京女子学園 清香会 発行
 編集責任者 小島 章 子
 印刷所 ハヤシ印刷写真株式会社



令和 4 年度 清香会総会報告

〜学園中ホールにて〜

晴天に恵まれた10月29日(土)、学園8階の中ホールにて令和4年度の清香会総会が開催されました。コロナ禍のために3年ぶりに会員のみなさまと集うことが叶い、120名を超える諸姉が集まる賑やかな会となりました。感染対策として、検温、手指消毒と換気に留



意し、開催時間も一時間半と縮小して行いました。定刻少し前より、新しく制作しました管弦楽版校歌の演奏を一同で聴いた後、学園側より高津理事長・河添校長・棚橋理事の出席を得て開会となりました。江木淳子副会長の開会の辞を受けて、高津稲穂理事長の

ごあいさつでは、新校舎建設、新校立上げ、共学化と新しい風が吹き、学園が進化変容していく状況のお話しがありました。河添健校長からは、各学年の試みや行事の紹介が、棚橋毅理事からは新校舎の様子について写真を交えて説明がありました。

続いて小林真由美会長のあいさつでは、實吉先生の時代から生徒募集に苦勞し、生徒減少の状況から女子校を断念し、共学化・新校立上げ・共学化に至った経緯についての説明がありました。校章の梅に寄せる思いや母校を愛する気持ちは変わりませんが、トレードマークの白線スカートの無くなることも卒業生にとっては非常に厳しい状況ではあります。前向きに受けとめて進んで行きましようとの結びました。小島章子先生の司会進行に従って、議事に移行し、①江木副会長より共学化・新校立上げ・校名変更への苦悩と激動の日々への活動報告、②倉田里香先生からは創立120年事業の

一環として校歌CDの制作、記念ミニメントの構想について、③小島先生からは東京女子学園中学校高等学校の募集停止をうけて、制服がなくなることを惜しみ「制服リカちゃん人形製作」についての説明がありました。続けて、④木野弘子さんと森麻美先生から会計報告、⑤堀ひろ子さん、大河原ミホさんから会計監査

報告、⑥森先生、木野さんから来年度の予算案が示され、出席者の拍手をもって了承を得ました。議事終了後は歓談の時間となり、久しぶりに再会した同級生や部活の先輩・後輩など皆さん談笑で楽しみました。お開きの時間が迫り、最後は新調したCDの音源に合わせて校歌で高らかに斉唱を行いました。この総会に先立ち、創立120年を記念して今回の総会出席者へお土産のご協賛いただいた

た高校67回生の齋藤江美さん(川小商店おいもやさん興伸)から、ご挨拶をいただきました。また、高校55回生の小林叔江さんからアイングクッキーの贈呈もありました。多くの皆さまにご参加いただきましたことと感激至極のひと時でした。なお、学園隣のNNビルにて新校の入試説明会も同時に開催されており、先生方のご参加が難しい状況でありました。例年より大勢の参加者になりました。至らない部分もありましたことをお詫びいたします。また、今後の清香会の進め方や運営につきましてご意見・ご希望をメール、書面でお送りください。(文責 編集部)

「新校説明会開催」

2023年度から本学園は芝国際中学校・高等学校として生まれ変わります。(東京女子学園中学校高等学校は22年入試を以って募集を停止しました)。6月25日(土)午後、学園隣の三田NNビル多目的ホールにて卒業生向けの説明会を行いました。季節外れの猛暑の中でしたが、約70名の諸姉が集まりました。司会は江木淳子副会長でした。高津理事長、河添校長から、新校に至る経緯とご説明をいただきました。加えて、新校のコンセプトの説明を山崎副校長

からお聞きしました。最後に小林真由美会長からは、「人の中なる人となれ」の教育理念の下で、これからも同窓会として、学園を応援するメッセージが伝えられました。(文責 編集部)



令和 4 年 教育実習生

6月初旬から3週間、2名の71回生(平成31年卒)が訪れました。



小嶋 夏鈴

日本体育大学体育学部保健体育科の教育実習生として、3週間、母校の東京女子学園で皆さんの貴重な体験をさせていただきました。事前には実習期間の3週間が果てしなく長いものになるだろうと考えていましたが、実際に体験してみるとあつという間でしたが濃密な時間となりました。「体育」は実技授業として体を動かし、生徒と共に進めていく形式です。生徒への指示がしっかり伝わるように、大きな声ではっきり伝えることを意識し、私自身も楽しんで取り組めるように進めました。

また、まだ至らないことばかりですが、諸先生方からいただいたアドバイスを活かせるよう、更に研鑽を続けていく所存です。

女子美術大学 芸術学部
 平田はるか
 まずは、新型コロナウイルス感染症の影響が続く厳しい状況の中、快くお受け入れいただき誠にありがとうございました。中学、高校と6年間お世話になった母校で再び学ばせていただいたことに、感謝の気持ちでいっぱいです。

3週間の実習では、実習生として実際の教育現場で指導者の観点から美術に触れることで、美術教育への理解をより一層深めることができました。また、生徒たちの柔軟な発想力からは日々新しい発見の連続であり、指導する楽しさ「を身を持って感じる」ことの契機となりました。さらに、学級活動や校外学習の引率、体育祭への参加など多くの貴重な機会に恵まれたことで、教員の仕事は担当教科の指導だけでなく、生徒全員が安心して学校生活を送れるように環境を整えるためのあらゆる作業を担っているのだと実感いたしました。

実際に教壇に立ち、先生方からご指導をいただいたことで得た学びは一生ものだと思います。教育実習という貴重な体験とおして学ばせていただいたことを糧に、今後とも教育への理解に努めてまいります。



平田はるか

創立120周年事業

東京女子学園は2023年に創立120周年を迎えます。
 清香会では学園創立120周年を記念して、創立当初から歌い継がれている私たち卒業生の心のよりどころである校歌を管弦楽演奏で整えCD音源にする事業を行いました。

ご希望の方はメール、FAX、お書書にて2月末までに清香会事務局「校歌CD係」までお知らせください。無償でお送りいたします。
 メール seikoukai@tokyo-joshi.ac.jp
 FAX 03-3451-0001
 1080014 港区芝4丁目1の30

校歌のCD制作について

音楽科 (高校40回生) 倉田 里香

創立120周年記念として、東京女子学園校歌のCDを制作しました。
 みなさまのご協力により、演奏、音質ともに素晴らしいものが出来上がりましたので、これまでの経緯を簡単に紹介し、報告いたします。
 かねてから校歌の音源を残しておきたいという希望がありました。創立100周年の期にも、顧問をしていたコーラス部とともに録音をとり、CDにもなりましたが、改めて音質・歌唱においてもハイレベルなものをと考えていました。
 そして令和4年1月、「校歌は学校を映す鏡です」「一度作った音源は貴重な財産となります」という言葉に触発されて、本格的に制作しようと思ひ、(株)フロンティアヴォイスさんに、CD制作をお願いすることにしました。

その前年令和3年11月頃より、制作会社に問い合わせをしてサンプルを送っていただきました。清香会で相談をしていただき、清香会にお願いすることにしました。この制作会社にお願ひすることにした理由は、
 一 学校専門業者であること
 二 決まった演奏者と録音スタジオがあること
 三 レコーディングに立ち会わせていただけること
 四 完成までのシステムが整っていてスムーズであること
 加えて、東京混声合唱団による歌唱というのも大変魅力的でした。ただ、制作会社のサンプル音源を聴いてみると、例えば、高校野球の中継で流れる校歌のイメージが強く、東京女子学園の校歌とは音楽的にも情趣にも全く異なる世界になってしまいました。東京女子学園の校歌は、美しく豊かな響きの和音進行と、女性的で気品があり、滑らかな旋律が特徴です。制作会社から送られたサンプルCDは、勇壮な応援歌風で、本校の

校歌のイメージには合いませんでした。
 そこで、管弦楽へのアレンジは作曲家の原雅史氏に依頼することとし、本校の校歌を長年歌い指導してきた私の希望を遠慮なく伝え、原氏はこころよく、その希望を聞き入れてくださいました。
 令和4年2月から3月にかけて、これから制作する校歌のCDは、スポーツの

大会で使うものではないこと、在校生だけではなく卒業生も乙女の気持ちに戻って、清々しい気持ちで歌うこと、校歌を通して母校への愛着や誇りを持ってほしいという願いを込めていることなどを原氏に説明しました。思いだけでなく、楽譜への歌唱上の留意点などを書き入れ、その写真をメールに添付する方法を繰り返して、管弦楽版の編曲作業をすすめていただきました。
 本当に、ここまでと思うほど、遠慮なく何度も何度も希望を伝えさせていただきました。そしてその都度、原氏はパソコンでカラオケ音源を作成し、何度もメールで送ってくださいました。メールでのやり取りでしたが、若い男性の作曲家である原氏にこちらの希望をしっかりとご理解いただき、二管編成での管弦楽版東京女子学園校歌が完成しました。
 3月末に、制作会社へ楽譜と参考音源を提出しました。オーケストラ、合唱団、録音技術スタッフ、その他たくさんの人びとが関わるレコーディングの日程はそう簡単には決まりませんでした。その間にはCDジャケットを作ることもありました。表面は高校2年生の吉澤心春さんがデザインしたロゴマークを

使用させていただき、裏面には創立当初からの校舎変遷や柵橋絢子先生の写真を入れて、全体は可愛らしいピンクで女子校らしくデザインしていただきました。
 いよいよ7月22日、早稲田アバコスタジオにてレコーディングとなりました。
 まず新室内楽協会の方がたによる管弦楽版の録音が行われました。120年歌い継がれた校歌が、初めて管弦楽で演奏された瞬間に立ち会えた幸せは言葉になりません。一緒に立ち会った清香会副会長小島章子先生は涙があふれていました。続いて東京混声合唱団の女声の方がたによる歌唱の録音が行われました。生徒以外の人が歌われる校歌を聴いたのも当然これが初めてのことでした。あらためて本校の校歌の歌詞と旋律の美しさを素晴らしさを感じ、誇りに思いました。
 8月2日、検聴盤CDを編曲者の原氏、小島先生とともに聴きました。
 卒業生も乙女の心にタイムスリップする華やかな前奏、前奏の4小節目で自然と息が入り高揚するような上行するフレーズ、スカートの白線にふさわしい気品にあふれた清らかな歌声、弦楽器と木管楽器の優雅な和音、金管楽器と打楽器のアクセント、2番からはグロッキーの音色で若々しさと可愛らしさを表現し、3番のチューブラーベル(コ

ンサートチャイム)の音色で学園のチャイムを感じて、最後の「人のなかなる人となれ」は気品を保って壮大に鳴り響きます。
 心の中で描いていた理想を持ちながら何度も聴き、斉唱の味わいができるように、また各楽器の音量、バランス、1番、2番、3番と徐々に盛り上がる構成に関してなど、数十か所の修正を、検聴ごとにお願ひすることになりました。
 オーケストラには20パート以上あり、それぞれ楽器の音色の特徴や役割があります。通常の2管編成でフルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットが各2本の木管楽器群、ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバの金管楽器群、ティンパニ、グロッキー、チューブラーベルの打楽器群、そしてヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの弦楽器群で構成されています。同じ楽器であっても、第1ヴァイオリン、第2ヴァイオリンという異なるパートがあります。木管楽器、金管楽器も同様、パートが分かれていて同じ楽器であっても違う旋律を奏でます。そのため、オーケストラは20パート以上という大編成となり、豊かな響きを作り上げています。
 これらを私たちが大切にできた校歌にふさわしいバランスに仕上げたい。ただ感覚的ではなく具体的に

的確に、編集技術スタッフへ言葉で伝えることは本当に難しく大変苦労しました。どうしても妥協したくない、この思いから何度も何度も調整に応じていただきました。
 8月29日、最終版の予定でしたが、同じメンバーで聴き、あと少しの修正をお願ひすることになりました。
 この「あと少し」のつもりが、さらに2回調整をお願ひすることになってしまいました。
 私は、中学、高校6年間を東京女子学園で過ごし、その後音楽科の一員として校歌の指導をしてまいりました。長年大切に思ってきましたが、じっくりと管弦楽版に取り組んだこの約半年間で、校歌がさらに愛おしい存在となりました。
 校歌を大切に思っ下さる清香会のみなさまや先生方のご協力があったからこそCDを完成させることができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

的確に、編集技術スタッフへ言葉で伝えることは本当に難しく大変苦労しました。どうしても妥協したくない、この思いから何度も何度も調整に応じていただきました。
 8月29日、最終版の予定でしたが、同じメンバーで聴き、あと少しの修正をお願ひすることになりました。
 この「あと少し」のつもりが、さらに2回調整をお願ひすることになってしまいました。
 私は、中学、高校6年間を東京女子学園で過ごし、その後音楽科の一員として校歌の指導をしてまいりました。長年大切に思ってきましたが、じっくりと管弦楽版に取り組んだこの約半年間で、校歌がさらに愛おしい存在となりました。
 校歌を大切に思っ下さる清香会のみなさまや先生方のご協力があったからこそCDを完成させることができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございます。



校舎の変遷
 1903年創立当時の校舎
 1930年代
 1980年代
 2000年代
 創立120周年記念
 校歌
 東京女子学園中学校・高等学校

卒業生も乙女の心にタイムスリップする華やかな前奏、前奏の4小節目で自然と息が入り高揚するような上行するフレーズ、スカートの白線にふさわしい気品にあふれた清らかな歌声、弦楽器と木管楽器の優雅な和音、金管楽器と打楽器のアクセント、2番からはグロッキーの音色で若々しさと可愛らしさを表現し、3番のチューブラーベル(コ

ンサートチャイム)の音色で学園のチャイムを感じて、最後の「人のなかなる人となれ」は気品を保って壮大に鳴り響きます。
 心の中で描いていた理想を持ちながら何度も聴き、斉唱の味わいができるように、また各楽器の音量、バランス、1番、2番、3番と徐々に盛り上がる構成に関してなど、数十か所の修正を、検聴ごとにお願ひすることになりました。
 オーケストラには20パート以上あり、それぞれ楽器の音色の特徴や役割があります。通常の2管編成でフルート、オーボエ、クラリネット、ファゴットが各2本の木管楽器群、ホルン、トランペット、トロンボーン、チューバの金管楽器群、ティンパニ、グロッキー、チューブラーベルの打楽器群、そしてヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの弦楽器群で構成されています。同じ楽器であっても、第1ヴァイオリン、第2ヴァイオリンという異なるパートがあります。木管楽器、金管楽器も同様、パートが分かれていて同じ楽器であっても違う旋律を奏でます。そのため、オーケストラは20パート以上という大編成となり、豊かな響きを作り上げています。
 これらを私たちが大切にできた校歌にふさわしいバランスに仕上げたい。ただ感覚的ではなく具体的に

的確に、編集技術スタッフへ言葉で伝えることは本当に難しく大変苦労しました。どうしても妥協したくない、この思いから何度も何度も調整に応じていただきました。
 8月29日、最終版の予定でしたが、同じメンバーで聴き、あと少しの修正をお願ひすることになりました。
 この「あと少し」のつもりが、さらに2回調整をお願ひすることになってしまいました。
 私は、中学、高校6年間を東京女子学園で過ごし、その後音楽科の一員として校歌の指導をしてまいりました。長年大切に思ってきましたが、じっくりと管弦楽版に取り組んだこの約半年間で、校歌がさらに愛おしい存在となりました。
 校歌を大切に思っ下さる清香会のみなさまや先生方のご協力があったからこそCDを完成させることができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

年会費とお心付けのお願い
 年会費2000円また、記念事業にご賛同の方は、お心付けも合わせて郵便局備え付けの振込用紙にてお送り下さい。ご氏名・お名前、下の番号(又は、回生卒業年度、生年月)もお願ひします。
 口座番号: 0018014191291
 加入者名: 東京女子学園清香会



5 月にご逝去された
片岡ふみ子先生を偲
んでの追悼文を掲載
いたします。

ワインを飲みましょう！

長谷 高之

家庭科には大御所がいらっ
しゃった。昨秋に六十五
歳となり、本年三月末に定
年退職を迎えたが、採用に
なったのはもちろん二十代
の時。その時、非常勤講師
から専任教諭に採用され、
新人として教員室に迎えら
れた。同期は四名いた。後
に校長に就任する社会科の
實吉幹夫先生、同じく社会
科の寺尾（伊藤）規史子先
生、そしてもう一人が家庭
科の片岡ふみ子先生だった。
家庭科には潮崎俊子先生、
榎本妙子先生、渡邊美恵子
先生のお三かたがいて、教
員室に確たる地位を占め、
独特の存在感を示していた。
たまたま潮崎先生のお姉さ
まが学生時代の恩師渡邊静
子先生だったことがあって、
このお三かたにはなにかと
目にかけていただき、ふが
いない新人をさまざま機
会に支えていただいた。今
でもそのご恩はありがたく
感謝している。その家庭科
の新人が片岡先生で、必然
的に親しくお話しをする機
会が多く、若干年の差があっ
たので同僚というより、弟

のように接してくださった。
ちなみに美恵子先生は東
京女子学園の卒業生ではな
かったが、俊子先生、妙子
先生は卒業生で、片岡先生
の大先輩に当たる、家庭科
は大変強固な陣容を持ち、
存在していたのだ。その後、
同窓会である清香会の会長
に静子先生が、副会長に俊
子先生が、時を置いて片岡
先生は副会長へお就きになっ
た。家庭科は同窓会の大き
な推進力なのだ。

片岡先生とはさらに、通
勤の経路が同じだった。「三
田緑友の会」と称して、三
田線を利用しての先生方
と、帰り道、日比谷、大手
町、神保町と三田線沿線で
下車しては居酒屋に行くこ
とがあった。片岡先生はほ
どほどに召し上がりながら、
若者たちの話しをよく聞い
てくださった。片岡先生が、
「ムツチャン、ムツチャン」
と呼んで、武藤先生を交え
て何度もワインを飲んだ。
武藤先生の理屈っぽいところ
へ、片岡先生がそこでツツ
コミを入れたり、とにか
く話しがつきなかった。今

となつてはほんとうに得難
い印象深い機会であった。
ある年の夏には、箱根に
私立学校の研修会に行く機
会があり、たまたま箱根に
片岡先生の別荘があり、同
じころ箱根にいるとのこと
で、研修が終わって、息抜
きにと別荘に泊めていただ
いたりもした。やっぱりそ
こでもワインを飲んだ。
片岡先生とは校務分掌で
は同じ仕事を担当したこと
もあったが、学年団として
は一緒に働くことは少なかっ
た。唯一、平成八年に一年
だけ一緒に働いたことがある
前年高一から高二に上がる
時、コース制のための学級
編成があり、入学時六クラ
スだったものが七クラスに
増えた。大坪邦久先生が学
年主任の時で、二年次には
ベテランの野田東子先生が
新たに加わり、ユニークな
学年団になった。大坪・長
谷・佐藤・野田・森井保・
鶴内・北岸の七名で一年間
を過ごした。修学旅行など
大きなイベント・行事をこ
なす学年であった。そして
高三になる時、激震が走っ
た。佐藤眞津子先生がご退
職になり、野田先生が学年
団から外れたのだ。人事の
発令は予測もつかず、ただ
驚くばかりであった。

そしてこのお二人に代わっ
て学年団に加わったのが武
藤滋先生と片岡先生。すで
に二年が経過した学年団に
三年次での参加はご苦心が
多くあったと思う。そのハ
ンディキャップをものとも
せず、学年やクラスの生徒
の教科指導はもとより、学
校生活や進路相談に、武藤
先生、片岡先生は精力的に
取り組んでくれた。学年団
に早く溶けこみ、学年団の
頼もしい戦力であった。一
年間という短い期間であっ
たが、同僚として仕事をす
る貴重な機会でもっともつ
とご一緒に仕事をしたかつ
た。

はじめにおことわりした
ように、本年三月、定年退
職の身となった。片岡先生
の訃報に接し、今記憶の断
片を探っている内に、ここ
にお名前を挙げた方がたに
多くの故人が含まれている
恩師渡邊静子先生をはじめ
無事定年退職の日を迎える
ことが出来たのは、こんに
ちまでもり立ててくださっ
た先生方、在校生の皆さん
……数多くの卒業生の皆さん、
そして感謝しきれない
先輩の先生方のお陰と心か
ら思う。

東京女子学園に身を置き
四十年、故人の徳を忍びつ
つ、東京女子学園の弥栄を
願い筆を擱く。

清香会への尽力 ～おおらかに緻密に～

片岡ふみ子先生を偲んで

清香会副会長（高校33回生） 小島 章子

片岡ふみ子先生（高校11
回生昭和34年のご卒業）が
令和4年5月27日に逝去さ
れました。

6月初めの午後、弟さま
から学園にお電話がありま
した。あまりに突然のお知
らせに耳を疑い混乱して言
葉が見つかりませんでした。
在職中の先生の担当教科
は家庭科、社会科のご指導
と、さらに長年に渡り調理
部の顧問としても多くの生

徒とともに歩んでください
ました。平成元年から定年
退職される平成18年3月ま
で、清香会の細かな事務作

業に加え、会報の編集を担
当されていました。当時
報は手作業での編集で、文
字数や段数を一文字ずつ、
一行ずつ数えて割り付け構
成を考え進めるなど、多く
の労力を要したことを折に
触れてお話しいただきまし
た。このたび追悼の文章を
書かせていただくにあたり
会報のバックナンバーを拝
読し直し、改めて緻密に計
算し進められたご様子と先
生のあたたかいお人柄と気
概が伝わってまいりました。
平成22年～30年の8年間2
期にわたり、青木勝美会長

を支え、清香会副会長とし
て、会の運営の中心を担い
て、各方面への気遣いをされ
ながら多大なご尽力をいた
だきました。

いつも穏やかにそしてお
おらかに、私たち卒業生を
愛してくださいました。先
生の長年のご指導とご研鑽
を東京女子学園及び、東京
女子学園清香会へのご貢献
に改めて感謝しますととも
に、心からご冥福をお祈り
申し上げます。

先生は、港区に生まれ中
学校高校の6年間をこの学
園で過ごした後、大学を2
校卒業されました。当時は
「女子大生亡国論」の時代
だったことを折に触れてお
話してくださいました。

長年教鞭をとられた母校
が、今回の新校の設立、学
校名の変更、校地売却など、
激変していく様子を誰より
危惧し、憂いていらつしや
いました。先生との最後の
LINEは30cmにも及ぶ長
さで、我が東京女子学園に
は、まだまだ再生の方法と
未来があるはずだと悩み、
模索されていた文章が残っ
ております。

令和2年には清香会のお
仕事を一緒に尽力されて
きた、中学1年生からのご
親友である藤本紘子さんが
ご逝去されたとき（第64号
掲載）は大変ショックを受
けられ、お寂しい様子もご
拝顔しておりました。

私は、先生が東女で初め
て授業を持った学年におり
ました。当時は一クラスが
50名ほどの大所帯の中、栄
養学の重要性を熱心に説か
れていらつしやいました。

定期試験の問題は難解で、
初めて試験を受けた時には
問題用紙が配布されると同
時に「えーっ！ うそ！」
とクラス中が驚き、ため息
を大きくついた記憶が今で
も蘇ります。思い返せば、
大学の栄養学の試験のよう
な内容でした。先生のそう
しいと、生徒に寄り添う姿
勢とを拝見したことがきつ
かけとなり、私も家庭科の
教員を目指すことになりま
した。また、さらなるご縁
で、清香会と先生のご推薦
もあり、母校での非常勤講
師から専任教諭へと移行し
た傍ら、調理部顧問の機
会もいただきました。木曜日
の放課後、多くの生徒がC
館の調理室に集まり、楽し
く充実した時間を過ごした
ことが、懐かしく思い出さ
れます。四季折々のレシピ
を考えた上での実習や、送
別会、そして毎年の梅香祭
での食品販売は、夏休み前
の業者向けの食品展示会へ
出向き、メニューを決める
準備から始まりました。試
作を重ねて準備を進め、当
日に備えました。梅香祭中
は、連日早朝から立ち通し
で多忙を極め、他の団体の

催しを見る時間もありません。帰途の電車では座席に座った途端に、眠り込んでしまい、下車する駅を遠く乗り過ぎて終点の高島平まで行ってしまったという話をお聞きするのが恒例でした。たくさんのエピソードと、語りつくせないほど多くの時間を過ごさせていただきました。部活の終わりや学期の終わりに私たちが後輩を労ってください、お食事やお酒をごちそうしてくださいとお心遣いもたくさんいただきました。常に生徒を慮り、そして私たち教員への心構えとして「生徒の成長はそれぞれ違うのよ。しっかり、じっくり向き合っていくことが大切よ」といつも教えてくださいました。片岡ふみ子先生、多くの教えとともに、母校に情熱を厚く注いでいただきましたことを心から感謝申し上げます。

会員のみなさまから

私の心を支えてくれる大切な青春時代
 高校56回生 平成14年卒業 下田 裕美
 私は2002年、東京女子学園理数系コースを卒業しました。私立の4年制大学を卒業後は、印刷関係の会社でグラフィックデザイナーを経験しWeb業界に進んだ後に、現在はスタートアップ企業に所属しながらフリーランスとしてクリエイティブ制作とデザインの講師の仕事をしています。



下田裕美さんとお母さま

そんな私は、未だに卒業試験がクリアできなかったらどうしよう...とプレッシャーで不安に押しつぶされそうな夢をみます。高校1年生のコース選択時に、私は数学が得意だったので、「数学の教師になろう!」とコースを選びました。元々絵を描くのが大好きで「将来は漫画家になる」と夢見て漫画部に入り、当時クラブ顧問の石井力先生の元、のびのびと漫画部の友人たちと日夜没頭して漫画制作をおこなっていました。そんな私だったので、両親は美術系に進学すると思っていまなかった。本当に芸術系に進まなくてよいの?と驚き何度も念押しの確認をしました。しかし「自分が一番好きなことを仕事にすると、先々仕事で躓いたときに人生が辛くなる。」などと生意気なことを本気で言い、私は理数系コースに進みました。

それから高校2年生になり理数系コースに進んだ私は「これは違ったかもしれない。やはり芸術系に進むべきだった」と早々に思い直し、両親と当時担任の小林俊道先生を困らせていました。だからいったい...と両親に叱られ、小林先生と何度も面談をして進学方法についてじっくり相談のつてもらい、「東京女子学園での成績をキープしながら、受験で必要な実技を習得すること」が残りの高校生活の目標になりました。それから夜遅くまで実技訓練を繰り返して、ちつとも上手に描けず絵の成績は思うようにいきませんでした。東京女子学園の成績も本気で理数系大学に進もうとしているクラスメートの中で私の成績はどんどん下がり、子どもながらにプレッシャーと不安で押しつぶされそうな気持ちになることが多々ありました。そんなときに、うまくいかなくて何もないわずに見守ってくれた両親、「大丈夫、下田さんならできるよ」と励ましてくれた小林先生、勉強がわからなくなってしまったときにノートを貸してくれた悩みをきいてくれた友達、放課後に補講してくださった先生がたのおかげで、自分が招いたとはいえない想定外の出来事がありました。

「東女の建物が無くなっていったよ」という衝撃的な情報を聞いて、次の日には東女へ訪問アポの電話をかけていました。令和3年6月、緊急事態宣言が明けるとはいえ、いまだコロナが猛威を振るっていた頃、そんな渦中にもかかわらず来校を歓迎してくださり、ご厚意に甘えて10年振りにいざ我が母校へ。到着するとA館とC館はすでに取り壊されておりました。B館のみが残存していました。入学式に記念写真を撮った玄関ポーチ。遅刻して石井孝文先生に怒られた下駄箱。先輩が怖くて中1では乗れなかったエレベーター。廊下でボールを蹴って割った蛍光灯。



左から寺田友子さん、名城真美さん、寺田文子さん

ていなかっただりぐりの高校生活をすっかり乗り切ることができました。心が病むこともなく、楽しく温かい思い出いっぱいのある東京女子学園で過ごした青春時代は、社会にでてから体力的、精神的に辛いことがあっても私の心を支えてくれる大切な記憶です。東京女子学園の温かい校風がこれからは、先輩たちに残ることを心から祈っております。

無くなったA館の跡地を見て、中学時代の様々な記憶がフィルム映画のコマ送りのように頭の中を駆け抜けていきました。

そんな感傷的な気分のままB館玄関へ向かうと、棚橋絢子先生像のお迎えがあり、思わず「ただいま」と反射的につぶやいてしまいました。

女子校としては最後の梅香祭にも行ってきました。参加型の催し物が多く、学生に戻った気分でも楽しめました。在校生と一緒に作ったミサンガや、的当てで獲得した景品、プリンセス気分を味わえる写真等等、大切に一生捨てられないね、なんて友人たちと話していました。お化け屋敷も少数で回しているとは思えないクオリティで、宝石探しも真剣に指定のカラーを探すも全然集められず(笑) 企画力の高さに脱帽です! とにかく在校生のみなさんが可愛くて、礼儀正しく

一生懸命で、そんな姿を見ていたら、女子校ってやっぱり良いな、ここで学生時代を過ごせて本当に良かったなとしみじみ実感しました。

『東京女子学園』が『芝国際』となって、建物も一新、新しく赴任される先生方も多数おられる中で、現在東女に在学中の生徒のみなさんがさらに飛躍すること、絢子先生の理を守りながら繁栄していくことを切に期待します。

形は変わっても「おかげで」とあなたかく迎えてくれる学校であることを願う、一生の友と出会うせてくれたまなびや感謝を込めて、新校舎の竣工、『芝国際』でのスタートを楽しみにしております。

令和4年度 学園人事
 ☆退任 (令和4年度3月)
 専任教諭 国語・長谷高之 社会・黒川 八重 英語・立原寿亮 司書・前田 朋香
 常勤講師 国語・楠木陽子 養護・栗原恵子 英語・松澤 晃治
 非常勤講師 英語・稲垣 純子 理科・大坪 邦久 社会 仲嶋 琴葉
 事務職員 経営企画・宮崎雅啓 (2月28日付) 事務長・村田英二
 ☆採用 (令和4年4月1日付)
 専任教諭 英語・鈴木 幸子 英語・専任教諭 英語・山崎 達雄
 萩原 夏子
 常勤講師 理科・佐藤 友哉 養護・金子 桜子 国語・内田 浩之 司書・田名部 まじか 英語・Janet Yamamoto
 非常勤講師 国語・高木 隆政 社会・岡部 宇秀 社会・木島 詩織 事務職員 佐藤 孝志 (2月21日付) 事務長代理 木曾 正志 (3月1日付) 教育担当 西山 真由
 事務委託契約 理事長補佐 小野 正人